

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：62608

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12854

研究課題名(和文) 田安德川家旧蔵の入木道伝書の分析を起点とした社会知の生成と流通に関する研究

研究課題名(英文) A study on the creation and circulation of the social knowledge through the analysis on the documents of teaching calligraphy owned by Tayasu-Tokugawa collection

研究代表者

海野 圭介 (UNNO, Keisuke)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：80346155

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近世日本における「書」の領域に関わる知識の生成と流通・定着の様相を探り、「書」の習得とその伝書の流通を通して伝えられた様々な知識の他分野の論書との関係性の解明とその歴史的、社会的意義に関する検討を行ない、併せて人文科学領域の分析対象としての入木道伝書の定位を行うことを目的として研究を進めた。

基盤となる基礎作業として国文学研究資料館所蔵のマイクロフィルムを用いた江戸時代に発行された入木道資料の調査とその書誌学的情報を含むメタデータのリスト化、徳川御三卿のひとつ田安德川家に伝えられた「書」の伝書である入木道伝書167点の書誌学調査とその内容同定を行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, we investigated the aspects of creation, circulation, and socialization of the knowledge of the teaching calligraphy in early modern Japan, and analyzed relationship between the knowledge of calligraphy and the knowledge of other fields of traditional arts like as waka poetry, tea ceremony, painting etc.

In addition, we made following basic data list: the list of the books of calligraphy published in the Edo era; the bibliographic information data of 167 titles of documents of calligraphy in Tayasu-Tokugawa collection.

研究分野：日本文学

キーワード：入木道 書道 書誌学 堂上 武家

1. 研究開始当初の背景

(1)「書」をめぐる芸術論と技術論の領域である入木道(じゅぼくどう)については、主として芸術・芸能の分野から検討が進められており、人文科学の方面からの検討は殆どなされてこなかった。しかしながら、入木道伝書には歌論、茶道論、画論などと共通する発想や用語、行文も少なくはなく、ひろく日本の芸道論のなかにおいて理解されてゆく必要がある。また、書物を書写する技術と理論を扱う領域でもある入木道伝書の検討は、書物文化の解明にも有益であると考えられる。

(2)「書」芸術に対する美的感覚の共有は国内においても高度な知識や体験を必要とするが、文字文化を異にする海外においてはさらに難易度が増す。在外資料の調査が積極的に進められている現在であるだけに、在外日本資料の物質的側面の理解を促進するためにも、「書」の技法を論理化する入木道と筆跡自体に関する「書」をめぐる議論の枠組みを在外研究者と共有する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は田安德川家に伝えられた「書」の伝書である入木道(じゅぼくどう)伝書167点(世尊寺流50点、持明院流117点、国文学研究資料館蔵)の個別の資料調査とそれらの内容のデータ化及び分析を起点として、江戸時代日本における「書」の領域に関わる知識の生成と流通・定着の様相を探り、「書」の習得とその伝書の流通を通して伝えられた様々な知識の他分野の論書との関係性の解明とその歴史的、社会的意義に関する検討を行なうことを目的とする。

〔注〕田安德川家は、八代将軍徳川吉宗(1684-1751)の二男宗武(1715-71)を祖とし、一橋家・清水家とともに御三卿と呼ばれる。宗武は舞楽・有職故実を中心に古典研究に力を注ぎ、その系統は諸道の伝書や故実書を多く伝えた。とりわけ「書」に関わる入木道の伝書は多様である。

3. 研究の方法

具体的作業としては、(1)国文学研究資料館所蔵の田安德川家旧蔵の入木道伝書の書誌学的調査、(2)他流の入木道伝書及び和歌・茶道・画論などの隣接領域の伝書との発想・語彙・用例等の比較検討、(3)江戸時代に刊行された入木道書の網羅的調査とその知的淵源の探求、(4)「書」をはじめとする諸道伝書を研究する手法の確立の4点を通して上記目的の達成を試みる。

4. 研究成果

本研究は、(1)基盤となるデータの作成、(2)資料個々の個別の検討とその理解を通じた知識流通に関する検討、(3)在外研究者を含む協同基盤の形成と研究手法の確立のための取り組み、の3つの分野から検討を重ねた。

(1)研究の基盤となる基礎作業としては下記2点を行った。国文学研究資料館に蓄積されたマイクロフィルム資料を用いて、江戸時代に版行された入木道資料の調査とその書誌学的情報を含むメタデータのリスト化を行った。徳川御三卿のひとつ田安德川家に伝えられた「書」の伝書である入木道(じゅぼくどう)伝書167点(世尊寺流50点、持明院流117点、国文学研究資料館蔵)の個別の書誌調査と内容同定を行った。

田安德川家入木道伝書の作成に関与した、森尹祥(1740-98)の著した『入木道伝書目録』には、世尊寺家・持明院家に伝来したとされる入木道伝書が180点程記載されているが、その多くは所在が確認されないまま、『日本書画苑』(国書刊行会、1914年)に示された翻刻が利用されてきた。その後、新井栄蔵、鈴木淳により田安德川家に伝来する入木道伝書が同目録と概ね一致することが確認され、『日本書画苑』に掲載される諸書の素性が明らかになった。田安德川家旧蔵の入木道伝書はその質量ともに充実したものであり、入木道とその歴史を考える上で不可欠な資料群であるが、国文学研究資料館編『田藩文庫目録と研究』

(青裳堂書店、2006年)に書目が揃うものの、その内容は概観出来ない状態が続いていた。本研究の基礎的検討によりその概要が明らかになった。具体的成果の一端は「5. 主な発表論文等」雑誌論文に報告した(以後継続予定)。また、作成した画像データは国文学研究資料館の発信するデータベースからの提供を検討している。

(2)については、上記資料を基礎的素材として下記3点を中心に内容の分析とそこから導かれる研究手法の探求を行った。入木道伝書及び和歌・茶道・画論などの隣接領域の伝書との発想・語彙・用例等につき、その伝書の伝来過程の検討と歌学伝授との関連性の検討、近世期における伝書の収集と現行形態との関係性の検討、「灌頂」を頂点とする歌学伝授のシステムと連続性の確認などの比較検討。

～ とともに個別の論点も多く、また、入木道伝書の検討を行うことで、逆に他分野の解明が進むことも少なくなかった。例えば、大師流と称される一群の伝書の伝来を追い、関連する記載事項を歌道等の領域の伝書に求める過程で賀茂社家の文事に「書」の伝授が大きな位置を占めていることが明らかになった。また、伝本調査の過程で中世以来の歌学の継承者である公家の間に歌仙や色紙に揮毫するための雛形が伝領されていったことも資料に即して考えることができるようになったが、調査の過程で揮毫された色紙、歌仙原本が出現し、それらの意図や歴史的意義の理解が進むこともあった。

具体的成果の一端は「5. 主な発表論文等」雑誌論文に解題的に記しているが、詳細は今後成文化を行いたい。また、学会発表等でも書くことの伝授の意義について触れる報告を行った。

(3)については、米国の研究者と協同して在外資料の調査を行い、書流の伝承者とその書に関する関与(修学、伝授、鑑定、販売等)

等について米国に所在する資料を用いて共同研究を行った。具体的には、Brigham Young University、Metropolitan Museum of Arts、Beinecke Rare Book & Manuscript Library、Yale Universityにおいて在米研究者とともに日本の古典籍の調査と研究、それにとまなうワークショップを行い、「書」の領域にまで視野を広げて、日本の書物文化と書写文化を考える視点とその方法(概念や用語の相違など課題は大きい)についても討議を行った。成果の一端は「5. 主な発表論文等」学会発表～で報告したほか、「書」の領域における国際的共同研究に関する手法の探求は今後も継続を確認している。また、Beinecke Rare Book & Manuscript Library所蔵資料の調査の過程で作成した古筆切(鎌倉時代以前の筆跡資料、多くは名筆として鑑賞の対象となる)の所在データは、国文学研究資料館の発信するデータベースからの提供を検討している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

海野圭介・金子馨、国文学研究資料館蔵田安德川家旧蔵入木道伝書解題(世尊寺家篇)、調査研究報告、国文学研究資料館、査読無、2018年、pp. 117-168、国文学研究資料館学術情報リポジトリ

(https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=3630&file_id=22&file_no=1)

海野圭介、大東急記念文庫蔵『古今和歌集灌頂』とその意義 仁和寺蔵『五智蔵秘抄』等との関係をめぐって、かがみ、大東急記念文庫、査読無(招待)、第48号、2018年、pp. 1-20

海野圭介、和歌注釈と室町の学問、中世文学、中世文学会、査読有、第61号、2016年、pp. 6-17

海野圭介、慶長前後における書物の書写と学問、鈴木健一編『形成される教養 十七世紀日本の知』、勉誠出版、査読有（招待）、2015年、pp. 221-242

海野圭介、短冊の愉しみ、書物学、勉誠出版、査読有（招待）第6巻、2015年、pp. 2-7

[学会発表](計5件)

UNNO Keisuke, "The Establishment and Development of *Kokin Kanjō*," The World of Abhiseka: Consecration Rituals in the Buddhist Cultural Sphere (international symposium), May 8, 2018, University of California, Santa Barbara, USA

海野圭介、中世古今集注釈とテキスト・信仰・学問、和歌文学会・説話文学会・仏教文学会合同例会、2017年12月16日、早稲田大学

UNNO Keisuke, *Kohitsu Tekagami* at MET and Yale, *Tekagami* Workshop, June 8 to 9, 2017, Metropolitan Museum of Art and Beinecke Rare Book & Manuscript Library, Yale University, USA

UNNO Keisuke, "The position of *BYU*'s *Waka dairin sho*; in the history of Japanese poetic texts, Discovering the Japanese Collection at Brigham Young University, Symposium and Workshop (international symposium), March 25, 2016, Brigham Young University, Provo, USA

UNNO Keisuke, "The Place of Manuscripts in an Age of Mass Publication: *The Tales of Ise* Commentary *Ketsugisho* in Manuscript and in Print," Early Modern Japan Network Annual Meeting at AAS 2016, March 31, 2016, Sheraton Seattle, Seattle, USA

6. 研究組織

(1) 研究代表者

海野 圭介 (UNNO Keisuke)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：80346155

(3) 連携研究者

西村 慎太郎 (NISHIMURA Shintaro)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：90383546

中村 健太郎 (NAKAMURA Kentaro)

帝京大学短期大学・講師

研究者番号：60596922

(4) 研究協力者

金子 馨 (KANEKO Kaoru)

国文学研究資料館・機関研究員

研究者番号：80633065

高橋 優美穂 (TAKAHASHI Yumiho)

日本大学・文学部・助手

研究者番号：90781774

石丸 真弥 (ISHIMARU Shinya)

国文学研究資料館・資料整理等補助員